

## 2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 多摩市立聖ヶ丘中学校 ] 担当教諭名 [ 吉見 さおり ] ( 2年 87名 )

相手国・地域 [ エストニア ]

海外学校名 [ Tamsalu Gymnasium ] 担当教諭名 [ Reena Curphey / Anne Kraubner ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	SDGs —アートマイル国際協働プロジェクト—	24
	放課後		20

### ■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	SDGs 3, 12, 13, 17 with コロナ SDGs について正しく理解し、行動を当たり前に行っている世界
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	SDGs 3, 12, 13, 17 を理解して、コロナ禍で SDGs を自分がどう取り組めるか考えられるような世界になりますように。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
実際に様々な違いがある中で、エストニアの生徒と話し合い、違いがあることを受け入れながら、互いに質問し、考えを深め合うことができた。深く考えないと、相手と話し合いができないため、SDGs について深く考えることができた。	インターネットを通じて、相手と話し合いながら作業をしていくため、言葉の壁を一番強く感じていた。中学2年生にとっては、歯がゆく感じられていたようである。もっと議論が深めたかったと感じていた様子。また、コロナ禍のため、計画通りに進めることができなかった。

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
同世代の他国の生徒と話すので、できるだけ英語のみならずエストニア語で自己紹介するなど、相手のことを考えて行動することができてきた。 また、SDGs のことを自分事と捉え、生徒会活動などでも、SDGs に結び付けて様々なことに取り組みながら、アートマイルの活動ができた。	SDGs について、教科の授業で取り入れたり、ロゴを授業で掲示しながら、最後には学んだ内容をもとに自分ができることは何かを深く考えさせる時間をもたせるような授業づくりを心がけるようになった。 また、英語の授業では相手と話すためには、どのように分かりやすくプレゼンテーションするかも考えながら活動させる授業づくりを心がけるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	6月	・英語でお互いの自己紹介 ・英語で学校紹介 ・相手国について調べ学習	英語で自己紹介動画を作成したが、なかなかマスクを着けたままで行うことが大変そうであった。また、相手国について調べ、全校用にまとめることができていた。	総合15
共有 テーマ学習	7月 ～ 9月	・5～6人編成の班ごとに SDGs 3, 12, 13 について調べ学習を行い、壁新聞を作成 ・調べたことを発表	コロナ禍で変わってしまったことは何かを考え、まとめることに苦労していた。また、発表を行う際に、自分の言葉で言い換えることが難しいと思う生徒も多かった。	総合8
融合 メッセージ作成	10月	学級委員と生徒会役員、また英語が得意な生徒と共に、エストニアの生徒とのビデオ通話を通して、意見交換を行った。	英語で質問を考えることができたが、相手から返されることに返答したり、意見を返したりすることに苦労していた。	放課後
創造 壁画制作	11月	相手校と話し合ってきたことを掲示し、2年生全体にテーマについての壁画の下絵の募集を行った。様々なアイデアをもとに下絵を描き、学級委員と有志で絵を完成させた。	募集を行った際に、様々な意見が出て、まとめることが大変だった。生徒自身、みんなの意見を取り入れるために深く考える場面などで苦労していた。	放課後
評価 振り返り 自己評価	3月	エストニアから戻ってきた作品の背景部分の作成を行った。また、完成した作品を基に振り返りを行った。	最後に今まで勉強した SDGs について、もう一度考え、絵を見ながら自分にできることは何かないか話し合った。	総合1

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてつもない 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	4	日本の中学校紹介では、学校中の写真を撮り、英語でまとめた。また、エストニアから来た学校紹介も英語を分かりやすい日本語にまとめて掲示するなど、相手のことを考えて行動できていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	エストニアと日本の違いについて、メールでのやり取り後、ビデオ通話することができた。自分たちが調べたことを基に、ちがいを受け入れ、どちらのメッセージも反映できるような下絵を作成できた。
主体的に考え行動する力	4	自己紹介で動画を作成した際には、相手のことを思って名前以外に何を載せればよいかを自主的に考えた。また、エストニア語を取り入れて、相手に寄り添おうと心がけている姿が見られた。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	事前に用意することができるものは、英語で発言や質問をすることができていたが、相手からのコメントに対する反応や意見をうまく返せないことが多かった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	様々な生徒に下絵をお願いする際には、自分たちでチラシを作成し、配布することができた。また、学年のリーダーである学級委員だけで、ほとんどすべての絵を作成し、完成させることができた。